

ぎふ感染症かわら版

令和元年 9月20日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



9月24日～9月30日は「結核予防週間」です！

結核は、今でも日本で発生の多い感染症です。
この機会に、結核の正しい知識を身につけましょう。

結核の基礎知識

どんな病気？

結核菌によって主に肺に炎症が起こる病気です。
最初の症状はかぜに似ていますが、
症状が長引くところが、かぜと異なります。

どうやって感染するの？

重症の結核患者の咳などで結核菌が飛び散り、
周りの人がそれを吸い込むことで感染します。
感染源となるのは、結核を発病している人のうち
たんの中に菌を出している重症の患者です。
軽症でたんの中に菌が出ていない患者や、
治療の効果で菌が出なくなった患者は、周りの人にうつす恐れはありません。

結核の症状



感染したらみんな発病するの？

感染しても必ず発病するわけではなく、多くの場合は免疫力により
結核菌の増殖が抑えられ、休眠状態になります。
しかし、免疫力が低い状態で感染した場合などは、2年以内に発病します。
また、感染後すぐに発病しなくても、年月がたって免疫力が低下したときに
休眠状態の結核菌が再び活動を始め、発病することがあります。

結核と診断されたら？

結核と診断されても、薬をきちんと飲めば治ります*。
しかし、薬を途中でやめてしまうと、結核菌が薬に対して抵抗力をつけ、
薬の効かない結核菌（耐性菌）になってしまうことがあります。
また、結核を発病していなくても感染していることがわかった場合は
発病を防ぐために服薬治療を行います。

*治療費用は公費の助成が受けられます。



国内・県内の結核の状況

日本で結核を発病する人の数は、年々減っているものの、他の先進国に比べるとまだ多く、世界の中では「中まん延国」とされています。

2018年には、全国で約15,000人が、岐阜県では279人が新たに結核を発病しました。近年は、結核患者に次のような特徴がみられています。

★ 80歳以上の高齢者が多い



国内の結核患者の大部分は高齢者です。岐阜県では、2018年に新たに結核を発病した人のうち、半数以上が80歳以上の方でした。これは、かつて結核がまん延していた時代に感染した方が、高齢となり免疫力が低下して発病することが理由の一つと考えられています。

★ 外国人の結核患者が増加している

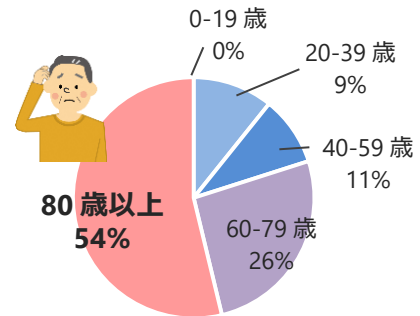


近年、結核患者に占める外国人の割合が増えています。

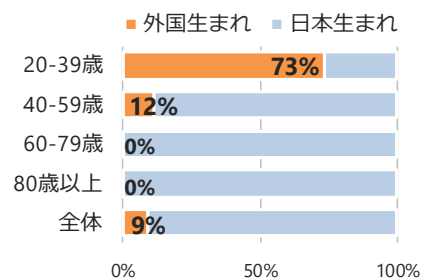
特に若い世代で多くみられ、岐阜県では、20～30代の結核患者の7割が外国籍の方でした。結核まん延国から留学生や技能実習生として来日する人が増えていることが大きな理由です。

また、外国人の方は、日本で健康診断を受ける機会が少ない場合もあり結核の発見が遅れる可能性があることも問題となっています。

新規結核患者の年齢別割合
(岐阜県・2018年)



結核患者の外国生まれの人の割合
(岐阜県・2018年)



結核を早期発見してまん延を防ぐために

結核のまん延を防ぐためには、早期発見が何より大切です。たんのからむ咳や、微熱やだるさが2週間以上続くときは早めに医療機関を受診しましょう。

また、症状がなくても、学校や職場、地域の定期健康診断をきちんと受けましょう。



結核を早期に発見することができれば、本人の重症化が防げるだけでなく、大切な家族や友人などへの感染の拡大を防ぐことができます。



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

